

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

◆ 『 落ち着きのない子への言葉かけ・対応の仕方 』

【メモ】

支援員が一歩を予測して動く。10秒前に子どもがいすに10秒後にはそのものを視界から離し回避する。注意引きで下さけ声を出したりする子には下声を出しそうに10秒後には時にその子に発言してもらったりして成功体験につなげる。

◆ 『 支援員の配置・関わり方 』

【メモ】

低学年は3児1人に1オーナー1人づついいだ。高学年は3児5・6人に3オーナー3人ほど。集団療育中は5人に1オーナー3人。子供よりスタッフの方が多い。
高学年は自分で考えていかなければどこができるかを言葉をかけていた。

◆ 『 環境整備 』

【メモ】

子供の目線でちょうど良い高さのロッカーに、おもちゃ類、本類が設置されている。部屋と部屋の仕切りも大人は隣が見えるが子供からは見えない高さで全体が見渡せている。クルクランできる場所も数ヶ所ある。療育を行う部屋も子供のサイズに合わせ、机の高さも変えられる。

<感想>

想像していた子供達と違い、皆、先生達の話を聞いて、楽しそうに活動していくので少し驚きつつ、療育を受けているからなのかなとも感じました。
その子が何に困っていて行動を起こすのかを、「へしてダメ」ではなく、「何故?」といふ目で向けて考える。成功体験で次につなげる。静と動の切り替えをする。など
学童でも取り入れられるユニーク試してみようと思いまして。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

- ◆ 『 一日のスケジュール（子どもにあたるスケジュールはあるのか）』

【メモ】

一人ひとりに合わせたやり方 “ねらい” “目的” 活動の流れを記録して練り返す = 自信がつく。 学習・トレーニング・集団活動などメリハリをつけてスケジュールにする。 平日1～2回のペースでOT/STの個別療養がある。

- ◆ 『 きまり・ルールは どうように示しているのか 』

【メモ】

自分で見てわかるようにする。掲示物は必要な物だけ貼る。
できたらシールを貼る ポイントをためるとおやつ交換・ゲームソフト30分間使用になるまで目標に向かってがんばろうと言う方に繋がる。

- ◆ 『 保護者との連絡方法 』

【メモ】

スマホを使用して毎日の様子を写真と文章で伝達している。保護者からのコメントもでき 自宅での様子などやり取りが行える。

<感想>

環境作り、仕切りを大人が立て見渡せる高さにしている。フルダインで
きる部屋・壁の色など安心して過ごせるように工夫されていました。先生達は
常に自己研鑽に励み子ども達一人ひとりに合わせた声かけや関わりを大切
にして成功体験を沢山ほめてあげることと心がけている事に見習う点が
多かったです。楽しく過ごしている子ども達の笑顔がとても印象に残ります。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

◆ 『トレーニング、集団活動時の言葉かけと見守り方』

【メモ】

奥様がこを行なう際のルールの説明が立派的でわかりやすかった。

児童の話を聞きながらもスムーズに活動に移っていく。活動しながら

児童の様子を確認し、活動範囲、ルールを変えていくが流れがスムーズ

だった。

◆ 『トラブル対応、トラブル回避方法』

【メモ】

大きなトラブルはなかったが、自分が奥になつて児童が納得いかない

様子だったが、「大丈夫、次があるよ」と声かけしトラブルにならず活動を
続けることが出来た。的確が声かけが重要と実感した。

◆ 『問題行動をして児童への言葉かけ (プラスに言い換える方法)』

【メモ】

問題行動をしている児童はいながらに、常に児童の行動を見守り

声かけをしていく。

<感想>

今回ハッピースマイルさんを見学し、ひとりひとりの児童に合った療育活動を行なっていたのが印象的で、児童は自己肯定感を高めるようになり幸せだと

思った。児童でもトラブルになる前に声かけをし、気持ちの切り替えをして、どうしても叱る場面が少くなってしまうので、児童の言、いの声を

聞いてプラスに言い換えることが出来るようになればと思った。

代表鹿島さんへの質疑応答は具体的でわかりやすかった。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『 子供と指導員の距離感 』

【メモ】

マンツーマンでみている子供でも、状況に応じて集団の中に入り自然に溶け込ませ遊はせっていました。常に全ての子供に向むかっている印象を受けました。

◆ 『 事業所の環境整備 』

【メモ】

小さな子供でも分かりやすく四隅の説明など表示し壁に貼ったり、パウチがありまして、クレグランが出来るスペースや廊下所がありそこには余計なものは何もない子供が現在遊んでいる部屋も含め散らかっている場所が全くありませんでした。

◆ 『 子供と指導員の会話 』

【メモ】

指導員は皆温穏やかで丁寧に子供を応援し褒め言葉をかけていました。子供も大声を出すといふ事もなく笑顔で指導員と話していました。

<感想>

こちら放げ化変更又はどちらも利用して児童をみていると明らかに良い方向に変化していると感じていました。今回事業所を見学することにより短い時間でしたがその理由が理解出来た気がします。放げ化を必要とする児童の保護者にも見学する機会を持てればと痛感しました。環境整備や児童の信頼関係築き方など参考になる点が多く意義深いものでした。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想

【 考察箇所 】



◆ 『児童発達支援・放課後等デイサービス』

【メモ】

一人ひとりに合わせた「環境・声かけ・関わり」を大切にしている。リハビリ特化型 全スタッフがリハビリ専門の有資格者である

◆ 『リハビリ職』

【メモ】

作業療法士…日常生活動作や買い物、バスの乗り降りなどが得意
言語聴覚士・心理士…コミュニケーション、言語、注意面が得意
理学療法士…体の使い方から辛くなく負担なく済せる方法
ひとつひとつをいろいろな方向から見立てることができる

◆ 『一人ひとりに合わせた目標設定 一人ひとりにあわてベストな形でできる』

【メモ】

考えられる要因から分析、対策をしっかり行い、生きた自立の力を育てる。自分の人生を自分で選択出来る力をつける

<感想>

「放課後デイサービス」を実際に見てみたかったので、今回実現できること嬉しい限りです。「学童」とは目的、役割が違うと思いますが、信頼関係の大切さや子供の動きの予測をして動き手を打つ事、成功体験から笑顔ができる事を増す工夫など共通してできる事、実際にやってる事など確認できて良かったです。

「放課後デイサービス」「学童」お互いが情報を交換しつつお互いの役割を担う事が本当に大切だと思います

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】 "ハッピースマイル"

ハッピースマイル

◆ 『 レーベルが守れるよい児童の支援の仕方 』

【メモ】

現場で走り回っていたり、暴れていたりする児童はいませんでした。

鷹島さんの話から、暴れる児童→別室に入りクールダウンさせると→落ちついたらお話をとる→黙って見守る→今が何時?何分?等⇒これで何度も繰り返し支援すると良い。

◆ 『 環境作り 』

【メモ】

視覚・聴覚を使ってアプローチ。「おかわり下さい」「学習時間」「掃除の度数」など一日の流れや感覚統合室でのレーベルなど自分で見て分かる様に表示하였다。

子供達が生活やすい様に見える化で掲示物を貼り工夫。

◆ 『 保護者の対応 』

【メモ】

保護者との関わりー毎日写真と文章で伝達。「OOI元張てチャレンジ(まいにち)
「お母さんはお家で育めてあげて下さい」と親が児童の事を沢山褒める様に促す。
お家で育めさせて機会を作りあげる。保護者と情報交換、共有する事も大切。

<感想>とても楽しかになりました。出来る事から児童が実践したいと思います。 ←

ハイ(ハッピースマイル)では私の思っていた児童の様子と異なり、落ちついて勉強したり。

楽しそうにゲームをしていた。児童のために教室作りもすごく工夫していました。

1人1人に合わせた環境作り・声かけ・関わりを大切にしていた。その子の子に合わせて支援と沢山褒める事が発達障害の児童に必要である。生活環境では、クールダウンスペース空間を作る。そして繰り返し支援する。掲示物は見える化で表示する。

低学年・高学年も皆落ちついて生活して楽しもうと活動している姿を見て、ハイと上手に喋る。この子も今居場所で活動できることの子にとって過去世せたと幸せだと思います。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想

【 考察箇所 】

◆ 『 支援する子供との距離感 』



【メモ】

3才～6才位の教室では、徐々に着いていくと学校の宿題をしている子がいたりして。しかし、
教員の方は、宿題の解き方のアドバイスをしたり、子どもの目標にはつづかう「ほぼ小さく」支援
されて、やる気を出しきりと言葉かけしていました。子供の様子を見て、確かに声かけ子供が
自分で考えて行動すれば、見守ることも大切だと思いました。

◆ 『 小学校 中高学年の放課後等デリバリーの1日の過ごし方 』

【メモ】

中高学年は、建屋の2階で玄関付近も別個に分けて、各自で体温計(自己用)のスケジュールを決めて過ごしていました。その中でも、身体を動かす時間では、クルーフォード身体
を動かして、クルーフォードワークなどをして意見交換をして過ごしていましたので見学できて良かったです。

◆ 『 教室間の区切り、子供達が利用する物の配置 』

【メモ】

教室内は、大人の高さで、110cmの壁で区切られています。それほど壁などに向かってい
る場所で、気付いてくれたりしないでいる、文具、筆、玩具など色々な色や名前をしっかりつ
けたり色々な物をかかげていました。

<感想>

今回ハッピースマイルスクールを見学して、子供達1人一人が目標を持って自立するための生活支援
身体的支援について「正、動」の切り替えの大切さと、また子供達に意見をつなげてつなげ
ることは、やはり、看護師としては、日々床に倒立するより、学童クラブでも大切だと思いました。
支援が必要な子供のための「クルータン」をする場所も私は、周りから見ていい場所だと思って
いましたが、この今回のお話を聞いて、子供が「リラックス」できる場所だから良いと聞けたので、学童クラブ
でも実行しますと思いました。意見交換の場でも子供側に立った声かけのしかたや心などは、保護者へ
の声かけに比べても良いと思います。見学できて、良かったです。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

◆ 『児童の活動の様子や遊び方、』

【メモ】

グループで活動をする時間と個別にやることをする時間があり、見学に行か時はグループで活動していました。個別に会話をしながら子ども達がグループの活動に参加していました。2Fのグループではパソコンを使用したり室内トランポリンで遊んでいました。1Fの和室(高齢者)は和室のことが好きだなあという感じでした。その後、廊下を歩いて入金して階段を登りながらおしゃべりする子供たちがいました。

◆ 『ハッピースマイルの理念や特色』

【メモ】

(A)人に合わせて、場所や時間、内容、目的等で個別化され、集団行動することなく、個別に行動されること、喜びをもつてのまじめ生きる力がつくこと。外の周辺の情報共有は朝の会議で金銭出し金員が金を聞くことで、リバウンドの専門性とうではないスタッフと両知識を合わせ持っている。

◆ 『保護者との関わり方』

【メモ】

保護者は教育中の様子をスマホでいつでも見れる。又、写真を下ろすことができるので、良いところ出来たことを伝える。又、保護者専用の園庭などを見に行く。保護者に対しての言葉の遣り方事が大事なこと。この時、話されれば言葉の使い方ばかり参観になり個人的に取り入れられ。

<感想>

当尊養の行方は、訪問見学最後だったのが、先に参加した支援員の報告書内で先に観がゆしかったが、私は今回参加したことばと地図にあります。謹慎のせんれきや人質配慮などは、主旨が変わらぬものではない。子供達が生き生きと誰もが参加できる様子が見えたのは良かった。又、園長の話を聞き、とても良かった。自分が密かに出来をうながされたので、出来どうするかがわからずも尊養の方の意見を参考して参考した。放課後と草薙川では主旨が違う点においては再共有が必要かと思う。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想

【 考察箇所 】



- ◆ 『発達児の何に気を付けるか 又その保護者への対応』

【メモ】

対応する大人は「余裕を持っていいなければならない」子に対して「自分がどうにかしてあげないと、感情移入で本気になりすぎでは良くない」引いて見ていく事。子の支援は多人数で「対応共体序にならないようにする為」障害に対して知識を持つ事がオーナー大事で、次にその子が「興味を増やし、その中で成功体験を増やしていく」スマーレステップ②「見える化（自信をつけてせる）」③以上のことを見た上で保護者にどう説明するかが重要（ケレツ理解して頂く）

- ◆ 『兎人數の教室で走り回ってしまう子に対する対応』

【メモ】

オーナーにどの子にとっての考え方山々様的な要因を考える。次にこの中から他の行動を照らし合わせて要因を狭めて行く最後に対策を考える。感覚の場合「走ってはダメ」との支援が無く、良い場所、ためな場所を決める。走らぬ目標が無く走って良い場所で走る「満足を味わせるとモチモチ走りたい時自分で先生に伝える」事が起きるようにする事で達成感を持つ事が大事。

- ◆ 『集団活動に参加する事をいやがる子の対応』

【メモ】

オーナーに「要因」を考える①興味が無い②失敗が怖い③どうにかいかならない④大勢が嫌い。次に「分析」子の視線、行動、発言を深め最後に「対策」①場の共有②大人が子の自己肯定感の低下を防ぐ③聴覚的理解力が弱い場合はスマーレステップ④苦手な事は苦手、相手に不快を与えない不参加方法とて参加するか見つけ場所見つかる（場の共有はするが、参加しないで良い等）

<感想>

ハッピースマイルの理念が「成功する人生ではなく、後悔しない人生を歩める、生きる実践力を開ける」社会を知り、その中での自分と他人を知る事、だらのものでも無い、自分の人生と自分自身で選択して生きを行けるようになっこほしいとの思ひがとても心に響きました。改めて放課後等デイサービスと学校学童の目的、役割にちがいがある事、私が私がそれらの役割を担うんだという所が今回の見学で腑に落ちました。以上の事を参考に学童での支援に役立てると思いました。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

- ◆ 『 指導室の壁に掲示物がないのは何か理由があるのか 』
掲示物は、目の邪魔にならないように必要最低限のものしか貼っていない。
目的に併せて壁の色を決めている。白は指示が入りやすい色。勉強室の壁は白ベースに青色を混ぜて、活動室は白ベースに緑色を混ぜている。

＜感想＞

放課後ディサービス（療育／リハビリ特化型）は、一人ひとりに寄り添った手厚いサービスを受けることができ、その子が成長できる場所だと思いました。

利用者は、10人/日と決まっていて、指導員は、ほぼマンツーマンでの指導。体を動かせるスペースや静かな環境で学習できるスペースがあり、整った環境での指導はとても羨ましく感じました。

騒いでいる子もいなければ、走りまわっている子もない。指導の成果が表れていると思いました。

鹿島さんの掲げるハッピースマイルさんの理念にも共感しました。

鹿島さんには、私たちの質問に丁寧に答えていただき、とても参考になりました。早速、学童クラブで実践しています。ありがとうございました。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



ハッピースマイル

【 考察箇所 】

◆ 『 支援の仕方 』

【メモ】

療育として1対1の支援は、その子に合った目標での支援をしていた。集団でもやはり、1人1人に合わせたやり方や目標での支援で両方もとも樂い遊びになるような支援をしていた。また大変な子に寄り添い、折り合いをつけながらトラブルを未然に防いでいた。またその支援員は、その子を見つ全見ていた。また支援は同じトーンでし、できた事にはほめたたえ、成功体験から笑顔ででき事増やす工夫を

◆ 『 遊びについて 』

【メモ】

年令によってさまざまな工夫のみられる遊びをしていて、遊びの中に療育として目的をもつてゴーあり、目と手の協調性や距離感などを導んでいるとの事だった。また遊びに限らず、ボインあり、おやつ・ぬいぐるみ・おもちゃなど興味を示す景品が置いてあり、そのポイントに向ける目標を決め、放い物は頑張ったら交換できるという楽しきが見られた。

◆ 『 トラブルの対応 』

【メモ】

見学時は落ち着いていてトラブルはなかった。トラブルを起す子には注意引きかわり、刺激を求めているので別室でクールダウンさせ、「無」の時間を作った方が良いとの事、その「無」の時間がもつ時間だと思わせ、隣室へ戻らせた方が良いとの事、根気のいる事だと思うが参考になった。ハッピースマイルのクールダウン部屋は机とイスだけで何もなく「無」の空間には最適だが、学童ではそういう環境は難しいのか現実だと見つた。

<感想>

鹿島さん御夫婦の子どもに対する愛情が深く見られ微笑ましく感じた。その環境からスタッフの皆さんにし見られハッピースマイルに通う子ども達は幸せだなと思った。鹿島さんのお話を分かりやすくとても参考になった。放課後と学童では何かと環境が違うため全く同じ支援はできないと思うが、基本的な「安全・安心・樂い場所」である事は一緒である事は間違いないと思った。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

◆ 『 指示物 どのようにしていざか？ 』

【メモ】

飾り付け等はしない。見える化（お約束等文字だけで書いて置く。
目的に合わせるべく少なく必要な事だけを書く。
紙色（白）指示が入りやすい。少し青・緑を入れる（落ち着く）

◆ 『 注目行動、注意でき 』

【メモ】

○大声で泣く等の場合、「泣きたかったらね、こっちで泣いていいよ。落ち着いたらおいで」と言って
別室へ。戻って来たらめいぱい楽に遊ぶ（泣いているのがもったいないと思わせる。）
○ブロックを蹴ったりして関わりのきかけにする（注意でき）「危なかったね」と言い別室へね。
話はげしない、クルダラン出来たら戻る、又やがてからじゃあス別室へ行くをくり返す。

◆ 『 』

【メモ】

<感想>

一人一人を見る大切さ、一人一人に合わせた目標設定によりほめる事が増える。
成功体験を増やす工夫が必要（視覚、聴覚を使ったアプローチ）
あられる事が刺激にならない場合もある。→ほめられる事の刺激に変える。
等々、色々参考になった。（支援員の増員や、クルダラン出来る場所があると
良いと思う。）静と動の区別をつける事も大切だと感じた。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

◆ 『 おじいちゃんを出で子どもの関わり方 』

【メモ】

注意書き = かまつもらえると思ふ行動かエスカレートし止まらなくなる。
代償方法としてこの場所がおかしい。これからいいよと提案
一緒に行う → 促す → 自分からステップを踏む

◆ 『 支援員の言葉を聞かない子どもに対して 』

【メモ】

信頼関係の作り方 手を加減を覚えてもらう。

子どもの声・行動を見比べてみる。

子どもの得意・不得意・特徴・活躍出来た場を作ること。

◆ 『 ミーティング・研修会へ参加 』

【メモ】

会議室とともに会議室には性格が、といった特徴がある。2. 何か

子どもの特徴が隠され踏み出さないでいることに合った環境作りをしていく。

ミーティングも録画し不在のときも見られるところを開放して
全員が把握できるのはほしいと思ふ。

<感想>

今回この研修会に参加した目的として、どの子がどの子どもが通勤して
いるのか、又学童に来ている子どもの中で放課後等デイサービスを利用
しているかなどと思ふ子どもに対しての支援のヒントを得たと思われた。
学童では多くの子ども達を見たことはないが、私が達にも余裕が
無いのも事実で、子どもの出来事に目を向けて成功体験を増やし
ける環境づくりに努めたいと思ふ。

ひたちなか市 学童支援員さんからの 見学・講話後の感想



【 考察箇所 】

◆ 『発達障害の子の何に気を付けければ良いか』

【メモ】

こだわりのある子は 見通しが立、といふと不安になる

子供により 色、音、物、行動によるこだわりがある

ひとりひとりに合わせた 環境・声かけが大切

◆ 『保護者の方との関わり方』

【メモ】

1日の記録をつけて スマートフォンで様子をどこからも見れる

保護者からのコメントも簡単で 反答率も高く かしこまらずに

相談や自宅の様子などやり取りができる

◆ 『子どもに対する注意の仕方』

【メモ】

ストレートに伝えた方が良い子。

意見を聞きながら その子の小迷いを開き、得意分野などもほめたまいで

気持ちを伝げさせ どうしてこうしたのか聞く伝え方

<感想>

放課後デイサービスを利用している児童は暴れたり走ったりと淘つかる子という印象がありましたが

ハッピースマイルさんに見学に行きましたが子ども達が落ち着いて活動しての様子見てとても驚きました

施設も壁の高さ・色・かい、部屋も目的に合わせて工夫された環境も整っていました

学習時間(静)と体を動かす時間(動)の区別をつけて次の行動に落ちついで移ることができますので、

「楽しく」「自分からやりたいと思う心」「出来た!」など終れる成功体験はとても大切な事なんだなと、

ほめる事も関係性をつくるには大切な事。児童の良い面を伸ばして行ける支援に繋がらなければ
良いと思いまして